

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	<p>⑫ 【自分と地域社会】</p> <p>学校林の樹木を間伐する体験活動を通して、身近な地域にある森林に目を向けさせ、地域に対する興味・関心をもたせる。</p> <p>森林は生物にとっての財産であることをとらえさせ、その財産を有効に活用する意識をもたせることで、身近な地域の発展を願う態度を育成する。</p>	総合的な学習の時間

## 【題材】

- 森林体験学習

## 【対象】

小久慈小学校 5年生

## 【実践の概要・詳細】

## 〔概要〕

- ・本校には、昭和24年から学校林があり、財源として活用してきたが、時代の流れで昭和52年以降手入れを休止している。
- ・平成22年度から森林教育として活用を考え、23・24年度は森林インストラクターに森林等の教材を活用して、校内での指導をしてもらってきた。
- ・平成25年度、初めて学校林を活用して、実際に体験することで森林の整備の大切さを学ばせた。

## 〔詳細〕

平成25年9月19日（木）に学校林を活用して森林体験学習を実施した。

講師は、森林インストラクター、森林組合職員、環境パートナーシップの職員である。

最初に、全体で講師の方から、のこぎりで「受け口」を作る間伐の仕方を教わり、児童は3グループに分かれてそれぞれの講師の指導のもと、雑木の間伐体験をした。

受け口の場所を決めることで、木を倒す方向が決まることを教わり、講師の方々による25年物の杉の間伐実演を見させた。

最後に、講師の方から、間伐や枝払い等、手入れをすることで木に光が当たり健康な木が育つという話を聞いた。

これらの活動を通して、自然や森林を保護する意味や大切さ等を感じさせたり考えさせたりする。



【授業の展開】

平成25年9月19日（木）森林体験学習

○学校から学校林へバスで移動

9:35 学校林に到着、開会行事（講師紹介も含む）

講師の方から作業に関する説明や安全指導（安全なのこぎりの使い方、のこぎりで「受け口」を作る間伐の仕方）を受ける。

10:00 作業開始

- ・児童は14～15人ずつ3つのグループに分かれる。
- ・各グループとも、講師の方々の指導のもと、伐採を行う。
- ・25年物の杉の間伐実演を見る。

\*児童は、雑木の間伐体験を通して、安全なのこぎりの使い方を習得するとともに、森林を整備したことを実感することができた。

11:30 作業終了

質問タイム

- ・木は1年でどれくらい大きくなるか。等

講師の方のお話

- ・「森林を守る」という観点からの話（間伐や枝払い等、手入れをすることで木に光が当たって健康な木が育つこと）

\*児童は、講師の方の話や間伐体験を通して、自分たちも森林を守っていることを実感することができた。

<児童の感想>

- ・私は、森林体験で教わったことで、一番大事だと思ったことは、「木を切ることは殺すことではなく、生かすこと」である。森の奥行きが見えたと感じるように切って手入れをすればいいということだった。私は、この仕事をしている人を「カッコイイ！」と思った。
- ・私は、森林体験で、私たちの山、小久慈小の山を育てたんだなと思った。
- ・私たちは、実際にのこぎりで木を切って森林整備をした。分かったことは、木を切ってその切り口の線（年輪）を見れば木の年齢が分かることである。

<まとめ>

- ・地域の人たちが森林にどのように携わり、育てているかということに実際に触れることや間伐体験を通して、地域と自分たちのつながり、森林保護の大切さを実感することで、復興への歩みとしていきたい。